



産業能率大学

令和8年度 大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議

大学入学者選抜 事例報告

産業能率大学「未来構想方式」一般選抜



すべてのものがその**モチマエ**を
100%発揮することが**能率**である

上野陽一

産業能率大学 創設者
日本初の経営コンサルタント

+ 100年変わらぬ「産業界の人材育成」



産業能率大学

学生教育部門と社会人教育部門が連携して産業界の
人材育成に取り組む

学生教育部門

大学



大学院



社会人教育部門

社会人



企業・地域



知識は
実際に役立ってこそ
価値がある

SANNO

+ 理論と実践の往還で 知識の活用力(実践力)を身につける



産業能率大学

専門教員

Academic Professor



専門知識の教授
(理論)



実務家教員

Practitioner Professor



実務的な評価
(実践)

動いて、学んで、本物になれ。

SANNO

高大接続・大社接続の取組み



産業能率大学

1999年	中央教育審議会『高大接続答申』 キャリア教育に関するインフォーマルな研究会 開始
2004年	高校生のためのキャリア開発プログラム 開始
2007年	総合型選抜 キャリア教育接続方式 開始
2009年	アクティブラーニングの模擬授業(教科科目)を実施
2014年	初年次PBL, 社会人基礎力育成プログラム 開始
2015年	PROGテストの経年(1,2,3年次)実施 開始
2017年	探究学習支援プログラム 提供開始
2020年	一般選抜 未来構想方式 開始
2022年	総合型選抜 マーケティング・イニシアティブ(MI)方式 開始
2023年	高校生履修可能科目「社会を動かすマーケティング」
2025年	パーソナリティ診断 開発・提供開始
2026年	1on1コーチング, SAによる学生面談 開始

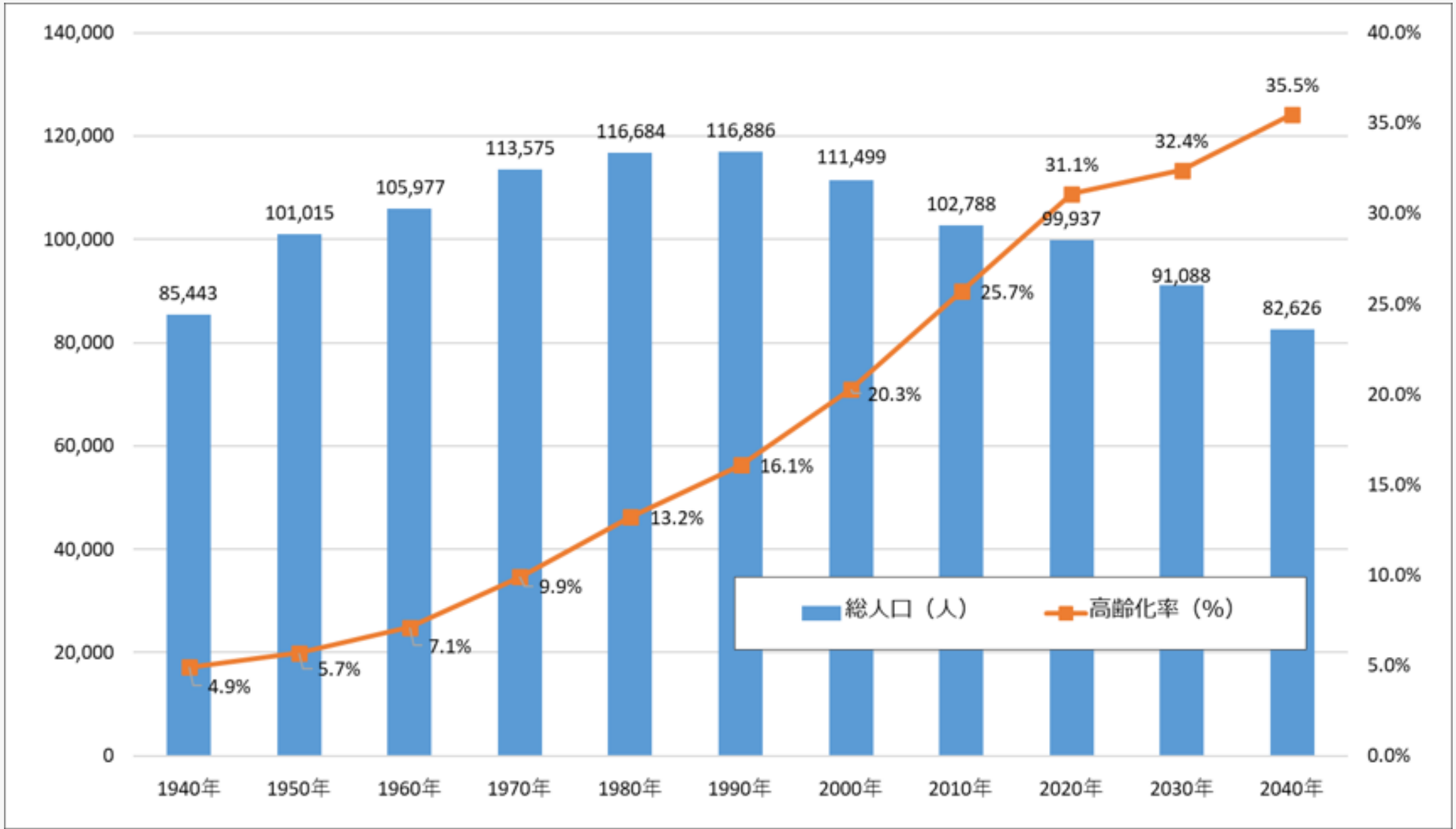
[実施概要]

選抜方法	① 大学入学共通テスト（3教科型・5教科型） ② 事前記述課題 ③ 試験当日の未来構想レポート ※100分	
対象学部	経営学部 経営学科	15名
	マーケティング学科	15名
	情報マネジメント学部	10名
日程 2026年	第1日程 2月5日 第2日程 2月19日 第3日程 3月6日	※同日午後に実施する 一般選抜と併願可

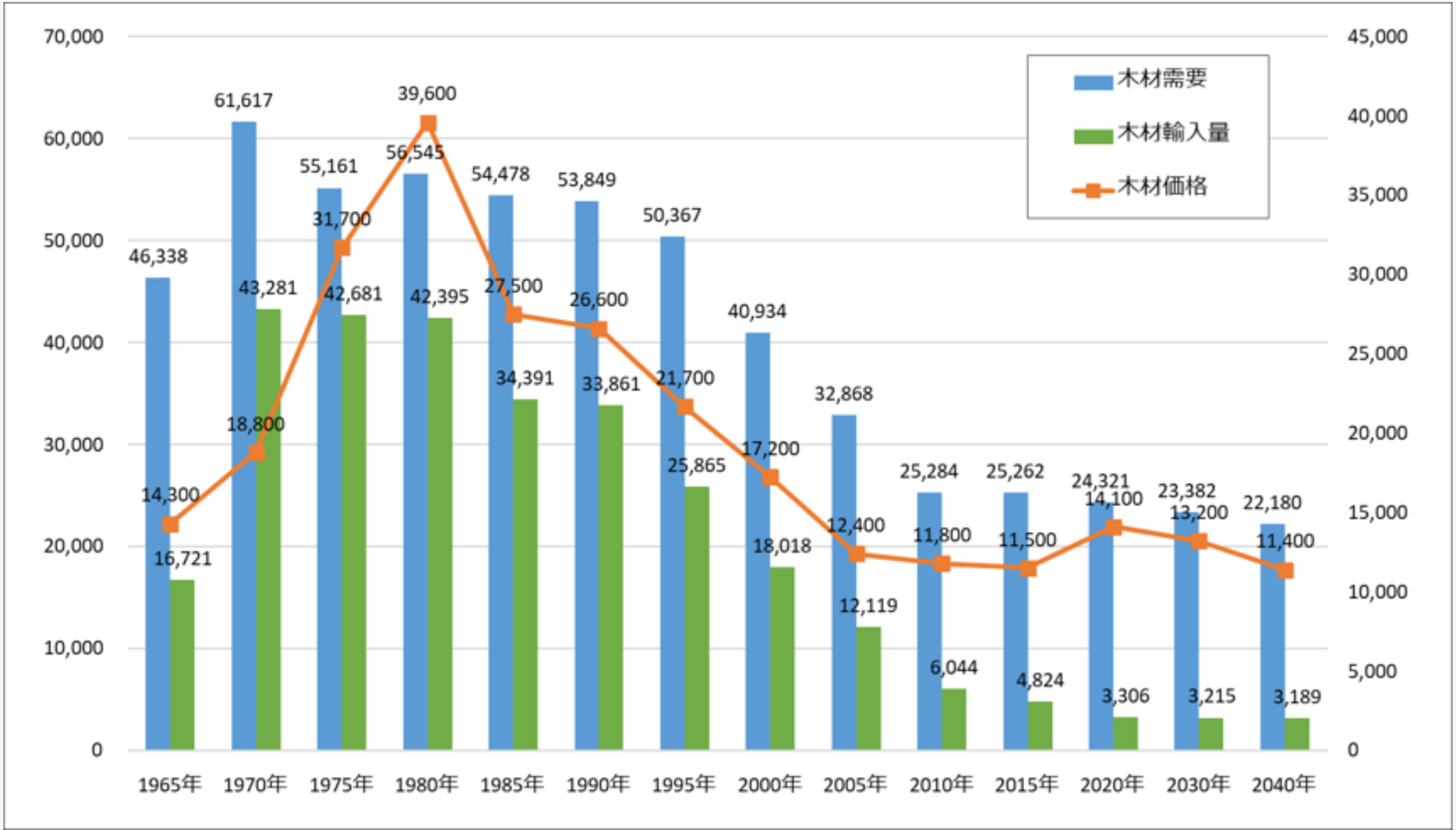
みなさんは、今、**2040年2月5日の日本**にいるとします。以下の課題文は、日本のある地域の1960年代から2040年までの歴史的な変遷を記しています。**図表**を参照しながら**課題文**を読み、設問に答えなさい。

- 問1 未来市は、2040年に存続の危機ともいえるような状況に陥ってしまいました。なぜ未来市はこのような状況に陥ってしまったのでしょうか。何がいけなかったのか（**衰退原因**）。あなたの考えを書きなさい。
- 問2 いつ誰が、どのような施策を講じておけば、未来市の衰退を止めることができたと思いますか（**地域活性化策**）。あなたの考えを書きなさい。
- 問3 上記問2であなたが提示した施策を実行した場合、2040年の未来市はどのようなになっていたと思いますか（**施策の効果**）。市の人口や産業、住民の生活、環境などについて幅広く検討して記述しなさい。

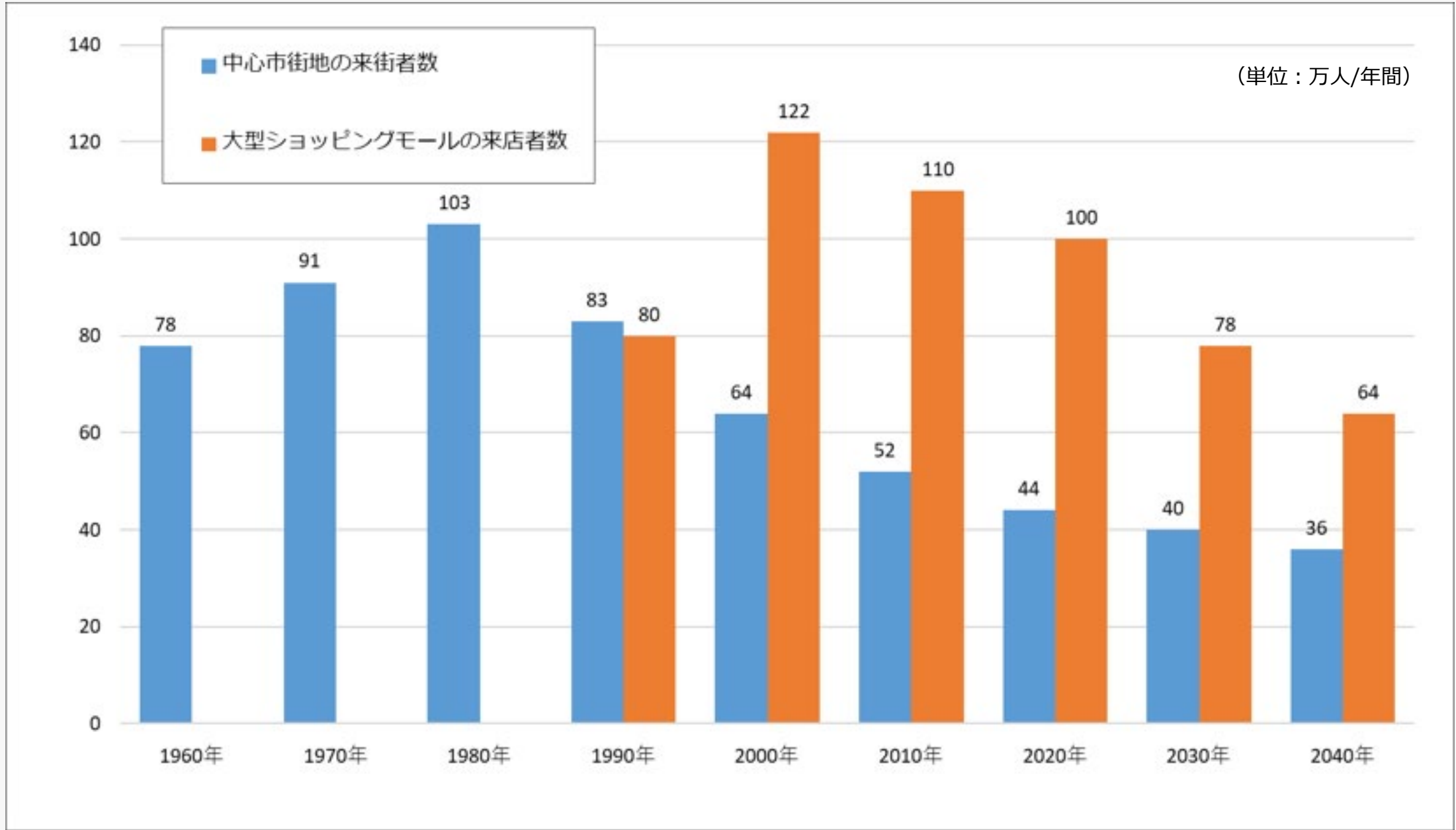
【図表1】未来市の総人口（人）・高齢化率の推移



【図表2】木材需要（千m³） 木材輸入量（千m³） 木材価格（円）の推移



【図表3】中心市街地の来街者数・大型ショッピングモールの来店者数の推移



[未来市の概要]

未来市は、岡山県北部最大の都市である。JR岡山駅から快速電車で約1時間、岡山県の海岸部から山陰にかけて内陸に入り込んだ盆地にある。中国山地のなかにあって未来市だけが平地の多い地域である。周囲を山に囲まれ、河川もあり、防衛上の立地の良さから江戸時代には10万石の**城下町**として栄えた。同時に瀬戸内地方と日本海とをつなぐ出雲街道の宿駅としての機能も持つ交通の要衝でもあった。年間の平均気温は14度、8月の平均気温は26度で、**瀬戸内気候**の地域としては緯度も高く冷涼で過ごしやすい地域である。

[未来市の歴史]

1960年代

中心市街地は県北最大の商業地であり、広域から買い物客を集めた。未来市には食肉処理場があり、**牛肉の流通拠点**となっていた。市内には精肉店や焼肉店が立地し、家庭ではもつ煮やホルモン炒めなどが日常的に食べられていた。未来市には、未来城や城下町の景観があり、街の名物行事である大名行列には毎年数多くの**観光客**が押し寄せた。

--- 中略 ---

1990年代

市の郊外にオープンした大型ショッピングモールは、多くの買い物客を集め、市民の生活になくてはならないものになった。週末に車でショッピングモールに出掛ける家族の姿が数多く見られた。他方、**中心市街地の賑わいは失われていった**。市は市街地の活性化を目的に地元食材を扱うマルシェを開設するなど対策を講じたが、目に見える成果は得られなかった。

--- 中略 ---

2030年代

「古民家エリア」はブームが一巡し、ゲストハウスの稼働率は低下し、カフェや農家レストランも平日の来客数の減少に悩まされるようになった。高齢化が進む中で、市は「歩いて暮らせる街づくり」をスローガンに、中心市街地に小規模店舗と公共施設を集約する方針を掲げた。厳しい財政状況の中、新たに複合施設を建設したが、思うように地元の出店者が集まらず、オープン後も空き店舗が目立つ皮肉な光景が広がることになった。

2040年2月5日の状況

未来市は人口減少、高齢化に苦しんでいる。人口が8万人近くまで減少した市の産業は限られ、周辺の都市部への人口流出も続いた。数年前から大型ショッピングモールが撤退するという噂があったが、先日、ついに撤退計画が発表された。

未来市にはたくさんの魅力と地域資源があったはずである。未来市は、なぜこのような状況に陥ってしまったのだろうか。いつどのような策を講じておけば、このような事態になることを避けることができたのだろうか。市民は、すっかり活力を失った街の姿を眺めながら、これまで市が歩んできた歴史に思いを巡らせていた。



大学卒業後、策を講じるべき時が訪れるかもしれない。
その時、学修した経営学の知識・スキルを活用して、人を巻き込み、
施策を構築・実行できる人材であってほしいとの願いを込めて出題
(実践主義)

スマホ持ち込みOK ※使用時間は制限あり

本方式では、情報検索を目的とした**電子機器**（スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン、電子辞書等のいずれか1台のみ）の持ち込みおよびインターネットへの接続が認められています。使用する機器のみ机上に残し、使用しない機器は電源を切ってカバンにしまってください。試験中に、試験問題の外部への発信、**外部とのやり取りおよび生成 AI を使用することは禁止**します。外部との連絡または、生成 AI を使用したことが発覚した場合は不正行為とみなします。また、上記電子機器での試験問題、別添の図表を撮影する行為は固く禁じます。撮影あるいはその疑いのある行為が、万が一発覚した場合は、不正行為とみなします。

- 一般選抜の中で（面接試験以外の方法で）学力の3要素のうち、特に**主体性、思考力、表現力**を測りたい。
 - ≫ PBL(問題解決型学習)など**本学の学びのスタイル**に合致する資質
- 知識の活用力のベースとなる**思考力**（情報把握・発想力）を測りたい。
 - ≫ 「知識は実際に役立ってこそ価値がある」
- 一般選抜志望者に本学の特色を伝える（**ミスマッチ防止**）
 - ≫ IRデータ：学力のミスマッチ < 志向・態度のミスマッチ

キャリア開発プログラム

仲間とのグループワーク等を通して、自身の**将来のキャリア**について考える3日間

[育成する力]

学ぶ力、取捨選択する力、考える力、将来設計力、意思決定力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力

社会を動かす マーケティング

高校生と大学生が本気で**社会課題の解決**に挑むプロジェクト型授業 *科目等履修生制度

[育成する力]

知識活用力、分析力、協働力、学修意欲、挑戦意欲、自己効力感、教え合い・学び合う態度

探究学習支援

各高校の探究学習の実施状況に応じて、講師派遣や職員研修などを実施

[例]

課題設定
プログラム

生徒向け



課題設定
コーチング

教員向け

[育成する力] 問題意識、主体性、問題発見力、情報収集力、
情報分析力、構想力、表現力、協働力など

SANNO実践PBL

*Project Based Learning 問題解決型学習

経営学部「都市型ビジネス」+ **初年次に3回のPBL**：オリエンテーションプログラム・前期・後期

アップ 科目	都市型 ビジネス	ミュージック・エンタテインメント		演習	2			2		○		○	
		アミューズメント・ビジネス		演習	2			2			○	○	
		エディター養成プログラム(編集者養成講座)		演習	2			2		○			
		自由が丘イベントコラボレーション	集中授業	演習	2			4		通年			
		ブランドプロデュース	集中授業	演習	2			2		通年			
		世田谷タウンプロジェクト	集中授業	演習	2			2		—	—		
		石垣島-自由が丘ブランディング	集中授業	演習	2			2			○		
		自由が丘スイーツプロモーション	集中授業	演習	3			4		通年			
		アーティスト・プロモーション	集中授業	演習	3・4			2		通年			
		スポーツマーケティング・リサーチ		演習	2			2			○		

情報マネジメント学部「コース横断プロジェクト（コース共通科目）」

授業科目区分		授業科目		授業方法	配当年次	単位数				配当期		実務家科目	履修条件
						必修	選必	選択	自由	前学期	後学期		
コース横断 プロジェクト (コース共通科目)		イベントプロデュース	集中授業	演習	2		4			通年			
		フィットネスビジネス実践	集中授業	演習	2		2				○		
		スポーツ・プロモーション	集中授業	演習	2		4			②			
		地域ブランド創造プロジェクト	集中授業	演習	2		4			通年			
		コンテンツビジネス実践	集中授業	演習	3・4		2			○		○	
		湘南ベルマーレコラボレーションプロジェクト	集中授業	演習	3・4		4			通年			



すべてのものがその**モチマエ**を
100%発揮することが**能率**である

上野陽一

産業能率大学 創設者
日本初の経営コンサルタント



産業能率大学

Q. 作問の負担が重くないですか？

A. 現在は作問ノウハウ（モデル地域の選定, 情報の量・多様性など）が蓄積され、チームで安定的に運用できています。

Q. 未来構想レポートの評価基準は？

A. 1レポートを2名の評価者が8段階で評価しています（根拠, 因果関係など）。経営学部2年次の調査研究報告書の優秀レポートの選考基準を参考にしています。

Q. 本当に主体性, 思考力, 表現力を評価できていますか。

A. できていると実感があります。評価者による評価の差は（おそらく皆様の予想以上に）小さいです。

Q. スマホ使用可とした経緯は？

A. 問題を作成した後、使用可としました。今後デジタルツールがなくなることは考えられない今、実務重視の本学として使用不可とすることの方が違和感がありました（入学後の学びのスタイルとの近接性含め）。

Q. スマホ使用による不正、生成AI使用をどのように防止していますか？

A. 事前・当日の注意と、利用時間の制限、監督者の増員で、これまでトラブルは発生していません。

Q. 受験者数・入学者数は？

A. 経営学部（2学科,3日程計） ※2026年度入試実績
3教科型 志願者132名、受験者115名
合格倍率 1.7～4.3倍
入学手続率は一般選抜の中では非常に高いです。

Q. 受験生の感想は？

A. 設問が面白い、楽しく集中して回答することができたという受験生が多いです。

Q. 本方式で入学した学生の入学後の学習状況は？

A. 選抜を伴うプロジェクト型授業などを積極的に履修する学生が多いです。

[参考]
大学入学者選抜 好事例集等



産業能率大学

令和 6 年度

大学入学者選抜における好事例集

令和 8 年 3 月
文部科学省高等教育局

産業能率大学「未来構想方式（一般選抜）」

選抜区分
Ⅰ

思考力・判断力
・表現力の
評価・育成

ここがポイント

- ・試験当日の未来構想レポート及び事前課題で、主体的な課題解決能力と思考力・判断力・表現力を総合評価
- ・各学年に開設する地域連携PBL科目において、発展的な学びへ接続。

令和6年度入学者選抜概要

事前課題に加え、試験当日に、近未来の架空の地域の課題と解決策を検討する「未来構想レポート」を課す。

入試方法：一般選抜

対象学部：①経営学部、②情報マネジメント学部

募集人員：①10名（学部全体の約2%）、②5名（学部全体の約1%）

入学者数：①13名（志願倍率3.2倍）、②1名（志願倍率1倍）

選抜方法：大学入学共通テスト、事前記述課題、試験当日の未来構想レポートにより選抜。

経営学部・情報マネジメント学部アドミッション・ポリシー（抜粋）

マネジメントに関する知識とスキルを、実践の場で活用することで、社会において活躍できる人材の育成を目指すとともに、自己の将来キャリアを設計し、その達成のために意欲的に困難に立ち向かう力を培います。

上記の能力向上のために、本学では、教養科目を広く学ぶことで政治・経済・文化等の社会の動きを掴み、専門教育として、経営理論科目と実践科目を相互補完的に学ぶことで、実践力（課題発見、分析、実行、評価、振り返り）を修得します。

ー そのために、入学希望者には、次の資質を求めます。（抜粋）

- ・グローバル化している社会の動きに高い関心を持っている
- ・主体的に課題を発見し、他者と協働して取り組むことができる

選抜の理念、背景にある問題意識

- 過去の事例や理論だけでは最適解を導くことが困難な時代において、知識や経験、収集した情報を総合的に組み合わせて自分なりの解を導き出す力が必要。
- このため、学力の3要素、特に主体性、協働性を面接試験以外で測る方法を模索。
高大接続事業において探究支援を展開するなかで、探究学習の中心が地域課題であると分析し、テーマ設定。
- 入学後は初年次ゼミにて地域が抱える課題の課題解決に取り組むProject Based Learningを実施。また、2年次以降も多くの地域連携PBL科目を開設し、発展的な学修が可能。

導入過程

- 平成30年頃より、入試企画部にて、新学習指導要領に基づく入学者選抜制度について検討を開始。
- 問題の分析、課題設定、情報収集（スマートフォン等活用）、情報分析を問う問題を出題し、正答は一つの解とすることなく、解答の妥当性、論理性等をルーブリックによる基準をもとに相対的に評価。
- 教職協同のプロジェクトチームを立ち上げ、選抜や評価の方法、入学後の教育等についての共通認識をもとに、一気通貫にて作問、入試運営、採点、評価、合格候補者案作成まで行うことで業務を効率化。

成果検証・課題

- 民間のアセスメントテストを全学的に複数年次で実施しており、本選抜による入学者は、リテラシー、コンピテンシーともに高い学生が多いことを確認。
- また、本選抜で入学した学生たちは、社会に対して広い視野と高い問題意識を持ち、主体的に学修する態度に優れている。
- 本選抜の運用方法については教職協働で検討し、実施後に振り返り、次年度の改善に反映。
- 電子機器での情報検索を可としているが、外部との接触や生成AI利用等の目的外利用を防ぐため、通常の一般選抜よりも多くの試験監督を配置。

産業能率大学「未来構想方式（一般選抜）」

- ・試験当日の未来構想レポート及び事前課題で、主体的な課題解決能力と思考力・判断力・表現力を総合評価
- ・各学年に開設する地域連携PBL科目において、発展的な学びへ接続。

選抜区分
I

思考力・判断力
・表現力の
評価・育成

本選抜を創設しようと考えた理由を教えてください。

社会が抱える問題が複雑化する中で、過去の事例や理論だけで最適解を導くことは難しくなっています。また逆に、一通りの解決策であれば、生成AIに問いかければ答えてくれます。

このような時代において、従来の知識の有無や知識量を問う選抜方式に加えて、知識や経験、収集した情報を総合的に組み合わせる自分なりの解を導き出す力を測る選抜方式が必要だと考えました。

実際に、本選抜方式で入学した学生たちは、社会に対して広い視野と高い問題意識を持ち、主体的に学修する態度に優れています。



学生インタビュー

正解が一つではない問いに対し、どのような回答を記述すべきか不安でした。また、どのように正解を導くかということに捉われず、導いた回答をいかに論理的に説明できるかが試されていると考えました。

入学後のPBL科目受講やゼミでの活動、就職活動などを通して、この選抜方式は、大学受験と大学での学び、そして社会とつながっていると実感し、驚いています。

- 志賀 晃大 -

経営学部 / 経営学科 / 4年



本選抜の創設過程において、社会（高等学校関係者や企業等）のニーズをどのように把握したかについて教えてください。

高等学校の先生方から「総合的な探究の時間」で身に付けた力や資質を活かすことができる選抜方式を求める声がありました。

具体的には、社会課題に対する問題意識、情報収集・分析力、考え抜く力、構想・表現力などです。そこで、近未来のある地域の社会状況が書かれた課題文を読み、問題状況を把握し、解決案を検討し、レポートにまとめる本選抜方式を企画しました。

受験者からは、探究学習の経験、自身の問題意識や経験を活かすことができたとの声が上がっています。



委員コメント

- 基礎的な学力を大学入学共通テストで確認しつつ、事前記述課題や当日レポートで社会課題への意識を高める取組である。また、当日レポートは、複数の文章やデータから読み取った内容をもとに課題解決の考えを述べるという、思考力・判断力・表現力を測る内容となっている点が評価できる。
- 入学後の地域連携PBLの学びともつながっており、入試が大学の学びのスタートということを体現できている点が優れている。

新たな選抜を検討する際に意識している点を教えてください。

大学入学選抜は、高校での学びと大学での学びを結び付ける連結点です。高校の学びが変われば、高校生が身に付ける力も変わります。その力を伸びやかに発揮できる選抜方式を用意することは大学の責務の1つです。高校教育の変化に合わせた新たな選抜方式を提示することで、本学が高校と共に社会の人材育成を担っている自覚を有していることを発信していきたいと考えています。

また、本学は「産業界に最も近い高等教育機関」を標ぼうし、常に企業や地域と「社会が求める人物像」について対話を続けています。その中で、求められる人物像に変化を感じたら、新たな選抜方式の創設を通して高校に「高校時代に備えておくべき力」も変化していることをメッセージとして伝えることも大学の大切な役割だと考えています。

大学入学選抜は、大学の理念に基づきつつ、社会や高校との対話を通して常に変化していかなければなりません。正直、選抜方式の新設や改編には多大な労力を要しますが、この不断の改善努力を怠れば、高校・大学・社会の接続性は担保できなくなると考えています。

- 杉田 一真 -

経営学部 教授
学長補佐
マーケティング学科主任
入試委員長



大学入学者選抜における総合型選抜の 導入効果に関する調査研究

報告書

令和6年3月

多様な総合型選抜方式を教職協働により提供

私立大学 産業能率大学

1. 総合型選抜方法の概要について

- 1998 年度の 11 月入試から導入。
- 令和 5 年度の全入学選抜に占める総合型選抜比は 21%(学校型選抜比=10.4%)。
- 産業能率大学はかねてより企業と連携した PBL (Project Based Learning) を盛んに実施している。そのノウハウを基に、高校向けに「探究学習支援プログラム」を提供。探究で培った社会課題の発見・解決力は必ず将来に生きるはずである。また探究学習は入試、さらには大学教育にもつながることを示したいと考えて、「探究学習支援プログラム」を提供。
- 総合型選抜方法では学科に応じて、下記的方式を用意。
 - AO (アドミッションズ・オフィス) 方式: 「自己の将来像」「大学での学習意欲」「高校までの学びや活動」「主体性をもって多様な人々と協働して学んだ経験」について、書類と面接を通して、個別に評価する方式
 - キャリア教育接続方式: 「自己のキャリア (将来) 構想」に基づく課題を解決するプランをプレゼンテーションし、大学が育てたいと考える人材との適合度を測る方式
 - AL (アクティブラーニング) 方式: マーケティング学科の特色である PBL を想定し、グループ討論を取り入れた方式
 - MI (マーケティング・イニシアティブ) 方式: 社会課題に対する解決レポートを課す産業能率大学で実施する総合型選抜唯一の併願方式
- 教職協働を 30 年近く実施して、効率的、効果的な入試を推進。

2. AO 入試、総合型選抜導入の理由、現在に至るまでの変遷・経緯について

- AO 入試および総合型入試導入の経緯

1998 年度の 11 月入試から導入を開始。

導入に至った背景の一つに、2000 年度から経営学部を新設することになり、その柱の一つに起業家を育成しようというものがあった。ところが、それまであった学力試験型の一般入試や公募制推薦では、自分が将来どのような起業家になりたいのかを確認できる入試は存在しなかった。

そのような折、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)の加藤寛先生が提唱された「未来からの留学生」に感銘を受け、これはそのまま本学にも当てはめられると考えて、SFC の先生方に話を聞かせていただきながら、本学らしい視点を盛り込んだ AO 入試を開始することを決定した。

一方、高校訪問をした際に、校長との会話の中で生徒に夢がないことが話題に上ることが増えていた。

当時、本学で高校生向けの作文コンクールを開催しており、改めてその作文を読み返してみると、確かに夢がなくなっていることを感じた。AO 入試は、将来の成りたい自分を考えて自己記述書を書かせるため、その選抜方式は今後より一層重要になると確信した。

本学関係者の反対はゼロではなかったが、慶應義塾大学が導入していることも手伝って、受け入れられ導入に至った。

経営学部が開設されたのは翌年だったが、学生が応募してこなければ意味がないため、一年前倒して、当時の経営情報学部で導入した。導入してみると、思った以上の受験者がおり、今まで本学を受験してこなかったタイプの学生が来てくれたことから、経営学部でもそのまま導入することとした。

3. 全体の入試戦略・方針について

- 全体の入試戦略について

実態としては総合型選抜の比率が上がっているが、一般選抜についても 2021 年度入試から「未来構想方式」という共通テストの得点率 5 割を出願要件としつつも、事前記述課題と本試験での未来構想レポートで合否を判定する入試を開始している。これまでの学力のみを物差しとするのではなく、本当に必要とされる資質・能力を測っていく入試にチャレンジしている。

様々なタイプの学生が集うことで、互いが刺激しあい、結果として学びの活性化が期待できる。

4. 総合型選抜体制整備状況について

- 学長直轄による体制整備

学長直轄の諮問委員会のような位置づけで、入試に関する小委員会を設置している。AO 入試の小委員会として発足したのがきっかけとなっているが、学長からの大号令のもと教職員全てを機能させるという体制としており、いわゆる教職協働を 30 年近く実施している。

入試の面接等も教員だけではとても手が足りないので、教員と職員がペアで実施する形で実施している。

職員については、入試企画部職員は当然ながら、教務課、学生サービスセンター、キャリアセンター等、様々な部署に協力を仰ぎつつ、各部署の管理職より適任者を推薦してもらい、受験者、入学者の実態をよく見てもらっている。

5. 客観的評価手法について

本学では総合型選抜でも様々な方式の入試を用意しており、ほとんどの入試で面接を課しているため、どのようなポイントの評価してほしいのか方式別に細かく示している。

それぞれでアドミッション・ポリシーとして注視すべきポイントが微妙に異なるため、そのポイントを具体表記したチェックリストがある。

基本的には絶対的評価でなければならないが、面接室という限られた空間の中での実施となるため、相対的な要素が入らないといえは嘘になる。

そこで、全面接終了時点で必ず、合格させたいこの学生とこちらの学生についてはなぜ合格させたいのか、逆にどうしてこの学生はダメなのか、その境界線はどこにあるのか等について協議したうえで決定している。

どのように客観的評価をしているのか、また、合否に対してどのように責任を持っているのか聞かれることが多いが、そもそも学力試験において一点の違いで合格、不合格を決めていることも客観性のあることなのか疑わしく感じる。何点以上だから合格、何点以下だから不合格というのはその時のその事情に過ぎない。

総合型選抜の面接では、その学生が本学に入学することで伸びるか伸びないか、その伸びしろを見てあげるようにしている。本学での伸びしろに可能性が低いのであれば、不合格にできるということは入学試験としてむしろ正しいことなのではないかと考える。

6. 入学者の質確保に向けた工夫について

● 学生の質について

最初に AO 入試を試験導入した経営情報学部は、当時まだスマホもない時代で、パソコンをやりたい学生は真面目だがどちらかというと地味でコツコツと努力するが、活気という点では物足りない印象の学生が多かった。

そのような背景もあったため、経営学部新設をするとはいえ、起業家育成など無理なのではないかと不安を感じる一方で、生徒会や何かしらの実行委員会等で中心的な役割をしてきた学生が入学すれば、大学が活性化するのではないかと期待も抱いた。

実際に入学した学生にグループワーク等を行わせてみると、その学生が周囲を引っ張ってくれて、教員から大変評価された。

入学後の追跡調査等でこのような学生はリテラシーが高く、入学後の成績もよく、リーダーシップも発揮してくれることが明確になった。その学生たちの力で、決して第一志望ではなく、入学後のモチベーションも低かった一般選抜組の学生のモチベーションも上がっていくという相乗効果が起きている。

その学生たちは PBL の授業で泣いてしまうほど情熱的な学生で、少し熱を下げないと他の学生がついてきてくれないのではないかなと思うほどであるが、教える側からすると学ぶ意欲が高いため教えやすい。

このような観点から学生の質は十分に担保できていると感じている。

● 全員に対する入学前・入学後教育の実施について

本学では、上記のような状況であっても、さらに意欲的な入学者の増加に対応すべく、入学予定者全員に対して、「主体的学習者育成プログラム（問題発見編・問題解決編）」講義・グループワークをはじめとする入学前教育を実施している。

また、入学後も PBL の拡充に力を入れている。入試で新たなハードルを課すのであれば、同時に入学者が『自分が大学でやりたかったのは、まさにこういうことだ』と感じられる教育プログラムを用意していく必要があると考えており、その一貫性ある教学マネジメントにも力を入れている。

「令和4年度大学入学者選抜における好事例集（令和5年5月文部科学省高等教育局）」について

事例集作成の目的

- 令和3年7月に取りまとめられた「大学入試のあり方に関する検討会議提言」においては、記述式問題の出題や総合的な英語力の育成・評価、多様な背景を持つ学生の受入れなどについて、他大学の模範となる先導的な取組を推進するため、客観的なデータを踏まえたピアレビュー等に基づき好事例を認定し、公表することが提言されている。
- これを踏まえ、文部科学省において、令和3年10月に「大学入学者選抜における好事例選定委員会」を設置し、高大接続改革や大学入学者選抜方法の改善を一層促進する観点から、令和3年度版の試行的な選定に引き続き、他大学の模範となる好事例を選定し、本事例集を取りまとめた。

https://www.mext.go.jp/content/20230525-mxt_daigakuc02-000005144_001.pdf

好事例の選定方法

- 調査対象は国公立大学・短期大学で、各大学から好事例と考えられる取組について記載いただいた令和4年度大学入学者選抜実態調査の回答をもとに選定委員会において審査を実施し、他大学の参考となり得ると考えられる取組 **17件**を選定した。
- 選定にあたっては、「大学入学者選抜のあり方に関する検討会議提言（R3.7.8文部科学省）」を踏まえ、特に推進が求められている以下を選定の対象項目として設定した。

ア	総合的な英語力の評価・育成	（選定件数：3件）
イ	思考力・判断力・表現力の評価・育成	（選定件数：7件）
ウ	多様な背景を持った学生の受入れへの配慮	（選定件数：4件）
エ	高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進	（選定件数：3件）
オ	文理融合の推進やその他の好事例	（選定件数：1件）

※複数の区分で選定されている好事例もあるため、選定件数の合計は17件と一致しない。

「令和4年度大学入学選抜における好事例集（令和5年5月文部科学省高等教育局）」における好事例について

● 横浜市立大学「特別公募制学校推薦型選抜」

基礎学力の担保とともに面接を重視した3段階の選抜方式。特に2次面接審査では、各受験者が5つの観点別の面接室を巡るMMI（Multiple Mini Interview）を実施し、評価のブレを抑えつつ多様な資質を評価。

選定区分ウ 多様な背景を持った学生の受入れへの配慮

● 青山学院大学「全国児童養護施設選抜」

スクール・モットー「地の塩、世の光」に基づき、児童養護施設入所者を対象に限定した選抜。入学後の学費、諸会費等の免除や奨学金の給付など、手厚い支援制度で在学中の学びの環境を整える。

● 東京女子大学「知のかけはし入学試験」

経済的理由により進学が困難な女子生徒に対して、多面的・総合的評価を行う総合型選抜に奨学金制度を付け、年内に進路を決定。学納金相当額（入学金・授業料・教育充実費）及び寮費相当額（該当者のみ）を卒業までの4年間にわたって給付。

● 芝浦工業大学「公募制推薦入学選抜（女子）」

女子学生獲得のために理工学分野に強い関心と意欲をもつ女子生徒を基礎学力テストや面接で評価し、入学金相当の奨学金給付制度とセットで実施。理工学分野での女性の活躍を支援する全学体制を確立。

● 熊本県立大学「特別選抜“くまもと夢実現”学校推薦型選抜」

熊本県内の生活保護世帯に属する生徒を対象とし、入学選抜手数料、入学金及び4年間の授業料を免除。県民に広く高等教育機会を提供するという理念の下、経済的事情から大学進学を断念せざるを得ない進学希望者の夢を実現。

選定区分エ 高校との連携をはじめとする高大接続改革の推進

● 工学院大学「探究成果活用型」

協定校と共催する探究シンポジウム（合同発表会・交流会等）を通じて、高校生が日頃取り組んでいる探究活動の発表・交流の場を構築。高校生の探究成果をアーカイブする探究データベースの構築など、大学の得意分野を活かした高大接続の取組を推進。

● 産業能率大学「キャリア教育接続方式」

3日間のキャリア教育プログラムと連動した、自己のキャリア構想に基づく課題解決プランのプレゼンテーション及び面接により選抜。総合的な探究の時間等による高校での多様な学びをキャリア構想に発展させ評価し、入試を通じて高校生自身の成長も促す。

選定区分オ 文理融合の推進やその他の好事例

● 青山学院大学「社会情報学部入試（個別学部日程D方式）」

社会科学・人間科学・情報科学分野の教員構成となっている、文理融合系学部の特徴を活かした多様な視点での考察を測る独自問題（総合問題）を出題。入学後に文理融合の複数領域を学ぶ資質を評価できる入試を実現し、入学後のミスマッチを防ぐ。